

2022年度版

理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの一部改正に伴う
「教員資格及び教育内容等の自己評価書」の公表について

【作業療法学科】

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
保健医療 技術学部 作業療法 学科	5人	5人	0人	1人	11人	6人	9人	0人	23人	3.9人	
△△課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
計	人	人	人	人	人	人	人	人	人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名		担当 コマ 数	担当教員	
					氏名	職名 (専任・兼 任)
	別添 【自己評価 2-1】					
	指定規則 教育内容一覧 参照					

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床基礎実習Ⅰ	1年前期	作業療法学概論	1年前期
臨床基礎実習Ⅱ	2年後期	作業療法コミュニケーション学	2年前期
		基礎作業学	2年前期
臨床評価実習	3年後期	作業療法評価学演習	3年前期

		日常生活機能評価学演習	2年後期
		感覚・運動系評価学演習	2年前期
		精神・社会系評価学演習	2年後期
		発達系評価学演習	2年前期
		高次脳機能系評価学演習	3年前期
総合臨床実習Ⅰ	4年前期	老年期作業治療学	2年後期
		感覚・運動系作業治療学Ⅰ	2年後期
		感覚・運動系作業治療学Ⅱ	3年前期
		精神・社会系作業治療学	3年前期
		発達系作業治療学	3年前期
		生活行為援助論	3年前期
		高次脳機能系作業治療学	3年後期
総合臨床実習Ⅱ	4年前期	老年期作業治療学	2年後期
		感覚・運動系作業治療学Ⅰ	2年後期
		感覚・運動系作業治療学Ⅱ	3年前期
		精神・社会系作業治療学	3年前期
		発達系作業治療学	3年前期
		生活行為援助論	3年前期
		高次脳機能系作業治療学	3年後期
総合臨床実習Ⅲ	4年後期	地域作業治療学	2年前期
		地域作業治療学演習	4年後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
○	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください

自己点検・評価組織名	自己点検評価委員会
委員名（委員長）	原 清治
組織の開催頻度	1年に3回程度
組織の取り組み内容	・ 質保証推進委員会に定める内部質保証の方針に基づく自己点検・評価
	・ 自己点検評価の実施運営
	・ 自己点検評価結果のとりまとめ
	・
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバス点検
	委員構成等	教育推進機構会議（各学部担当主任、教育推進機構長、事務局）
	改善の仕組みの実際	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの公開前に、授業の到達目標、成績評価の基準を各学部・学科で確認してから公開している。 ・シラバスの入稿にあたり、入稿マニュアルや注意点を取りまとめた動画を作成し、公開している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>○学科内での自己点検評価ワーキンググループを設置して、自己点検項目に即して問題点を抽出し、改善に向けての対策を立て実行する仕組みを作り運用する。</p> <p>また、学科内での自己点検評価を学部教授会・自己点検評価委員会・質保証推進委員会に報告し公表することを全学体制で取り組む体制づくりを行う。</p> <p>○質保証推進委員会を設置し、自己点検・評価結果に基づく改善・向上に関することを審議し、大学全体としての内部質保証を推進している。</p>
